

JKP
PROJECT

「パラグラフ・リーディング」手法による
論理的思考力育成の授業実践

R7授業力向上推進プロジェクト委員会

斐太高等学校 奥原美智子

令和7年度 学力向上総合推進事業<高校外国語>

1

目次

01. テーマ設定の理由
02. 研究方法
03. 研究を進めるにあたっての課題や展望
04. 研究実践
05. 成果と課題
06. 考察および今後の展望

2

01. テーマ設定の理由

「パラグラフ・リーディング」手法による
論理的思考力育成の授業実践

大学入試に向けての英語長文読解においては精読も不可欠であるが、従来の一文ずつ訳す方法だけでは、全体の意味把握が難しい。そこで、文章構造と要旨を捉える「パラグラフ・リーディング」に注目した。

論理的思考力を育て、効率的な読解力向上を目指す。
その効果を検証し、指導法の深化を目指す。



3

02. 研究方法

- STEP 01 入試問題の分析
- STEP 02 授業実践
- STEP 03 研究授業
- STEP 04 授業アンケート
- STEP 05 分析・フィードバック

Point

▶「パラグラフ・リーディング」を用いた授業実践および研究授業を行い、英語長文の概要把握と論理的思考力を養う読解法を実践する。

▶授業アンケートによる理解度・定着度の把握に加え、定期考査や模試の成績変化を分析する。

4

03.

研究を進めるにあたっての課題や展望



生徒主体の授業展開

- ・大量の語数に対応するため、長文読解の練習が必要
- ・語彙・文法力に加えて、効率的に読み解くための方法を使うことが大切
- ・生徒が自分で考えて読める力を授業の中で伸ばせるかを確かめる



アウトプット活動

- ・従来の長文演習は確学にて、解答と解説の確認が中心になりがち
- ・段落構成や論理展開を踏まえ、筆者の意図をつかむことが必要
- ・自分の考えを整理し、アウトプットする活動が重要
- ・思考力・判断力・表現力の向上



評価・フィードバック

- ・生徒が成長を実感できる評価とフィードバックを行う
- ・理解度を自分で確認できる仕組みを作る
- ・より良い学びにつながるフィードバックの形を検討する

5

04.

研究実践

日付	実践内容	授業内容	使用英文の概要	コメント・所感
5/12~	放課後補習 (週1回×6回) *希望者約80名	・パラグラフ・リーディングを用いた英語長文読解指導の試行	短いパラグラフの基礎編から複数パラグラフの応用編へと展開する	授業内で本格導入するための実践ができた
9/3	【1】授業実践	・入試過去問(立教大) ・グループワーク	論理展開: 序論→結論→根拠	ワークシートの解答時間との調整で、フィードバック不十分
10/15	【2】授業実践	・入試過去問(滋賀医科大学) ・グループワーク	論理展開: 導入→序論→本論→結論	論理展開が標準的な構成で理解しやすかった
10/28	【3】研究授業	・入試過去問(一橋大) ・ジグソー法によるグループワーク	論理展開: 事実→検証	論理展開が応用的で、英文分析や読解方法の難易度が上がり、指導に工夫が求められた

6

#04. 研究対象

- ・実施クラス：普通科3年生 2クラス(文系28名・理系35名)
- ・実施授業：英語コミュニケーションⅢ
- ・実施回数：3回/各クラス
(うち理系クラスの3回目で校内研究授業を実施)
- ・教材：大学入試過去問の英語長文
- ・内容：各パラグラフの主題文の特定と論理展開の把握を通して、文章全体の理解を深める
- ・形式：グループ演習

7

▲生徒用ワークシート

▲Self-Evaluation(自己評価)

#04

使用教材

▲パラグラフ・リーディングについてのワークシート

▲Microsoft formsによるアンケート

Self-Evaluation (自己評価)

- 接続詞やディスコマーカ―を手掛かりに、英文の段落構成と論理展開(例示、逆接、対比、追加など)を理解できた。(A B C)
- 接続詞やディスコマーカ―を手掛かりに、筆者の主張とその根拠を把握できた。(A B C)
- 今日のパラグラフの論理展開や筆者の主張をどくらい理解できましたか。
(A) よく理解できて、自分の言葉で説明できる。
一部は理解できたが、もっと練習が必要だと思う。
理解が難しく、よくわからなかった。

8

#04 パラグラフ・リーディングの概要

- 文章を段落ごとの意味のかたまりとして捉え、全体の構成や筆者の主張を論理的に読み解く。
- 「文」ではなく「段落」で読む。全体構造（序論・本論・結論）を意識。
- 速読と精読のバランスがカギ。

【読解のステップ】

1. トピック・センテンスを見つける

- 各段落の最初（または最後）に注目。
- 主題や筆者の意図が示されていることが多い。

2. 段落の役割を意識する

- 例示、対比、抽象→具体、結論
- 段落ごとの機能を見極めて、全体の流れをつかむ
- 全体の論理展開を整理しよう。

3. 接続詞・指示語に注目

- however, for example, therefore などの論理マーカーが構造のヒントになる。
- this, such, these などの指示語は何を指しているかを確認。

4. パラグラフごとに要約する

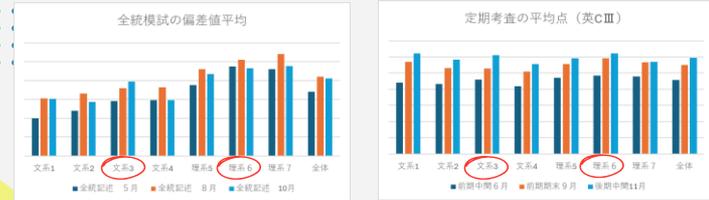
- 各段落を一文でまとめ、全体の論理展開を整理しながら読む。

参考文献：英語英文を読むためのパラグラフ・リーディング
高校中・上級用 野村 武士(著) 日栄社

9

05. 成果と課題

成績推移分析



成績の変化にほとんど差がなく、パラグラフリーディングを安心して導入できることが明らかになった。

10

アンケート分析

Microsoft formsによる
授業後アンケートより
(n=54)

54件の回答が送信されました

「パラグラフ・リーディング」の授業で、「パラグラフリーディング」の考え方を理解できましたか？



87%の生徒が理解

54件の回答が送信されました

「パラグラフ・リーディング」の授業で、文章全体の論理展開や要旨の把握ができるようになりましたか？



82%の生徒が習得

11

生徒のコメント (一部抜粋)

Microsoft formsによる授業後アンケートより



- 難しいと実感したが、長文から逃げずに流れを掴んで読む努力をしようと、意識が変わりました。
- 自分がいかに文章構造を意識せずに英文を読んでいるか気づかされました。
- パラグラフごとの内容整理で全体理解でき、模試で段落読みができ、読み直しの手間も減った。
- グループ交流があることで様々な意見を取り入れることができた。

協働学習により、理解の深化・コミュニケーションの向上・意識の変化が見られた。

12



06. 考察および今後の展望

- **成果**：成績への影響がないうえ、授業満足度と理解度は高く、英文読解への意識が前向きになった効果を実感した。
- **課題**：段落構造のつかみにくい英文もあり、分析に時間がかかる。より良いフィードバックと自己評価基準の整備が求められる。
- **改善策**：問いかげや構造理解を助ける教材を取り入れ、読解の流れを少しずつ身につけられるようにする。

さらに指導法を多面的に研究し、深めていきたい。

参考文献

- ・ 英語長文を読むためのパラグラフ・リーディング 高校中級用 野村 武士 (著) 日栄社
- ・ 入試長文を読むためのパラグラフ・リーディング 高校上級用 野村 武士 (著) 日栄社